

お知らせ

日本熱帯農業学会 平成 24 年度総会ならびに第 113 回講演会

期 日 2013 年 3 月 30 日 (土)・31 日 (日)

場 所 茨城大学農学部 講義棟

事務局 〒300-0393 茨城県阿見町中央 3-21-1

日本熱帯農業学会第 113 回講演会運営委員会

運営委員長 新田洋司

運営委員 浅木直美・佐藤達雄・塩津文隆・坂上伸生・小谷博光

TEL・FAX : 029-888-8552 (浅木)

E-mail : n-asagi@mx.ibaraki.ac.jp (浅木 : 参加・講演申込等)

参加費 一般 : 5,000 円, 学生 : 3,000 円 (要旨集代を含む, 当日受け付けます)

懇親会費 一般 : 4,000 円, 学生 : 2,000 円 (当日受け付けます)

発表者について 発表者は会員に限ります。入会されていない方は発表当日までにご入会ください。

受 付 講義棟 1 階ロビー (3 月 30 日 (土) 9:00~, 31 日 (日) 8:30~)

会 場

第 1 日 3 月 30 日 (土)	第 1 会場 (203 講義室)	第 2 会場 (204 講義室)
9:30~12:00	研究発表 (講演番号 1~10)	研究発表 (講演番号 11~20)
	第 3 会場 (100 講義室)	
13:30~14:20	総 会	
14:30~17:30	公開シンポジウム「気候変動下で対応を迫られる首都圏農業—熱帯農業をヒントにした適応策と智恵—」	
17:45~19:15	懇親会 (こぶし会館)	

第 2 日 3 月 31 日 (日)	第 1 会場 (203 講義室)	第 2 会場 (204 講義室)
9:00~12:15	研究発表 (講演番号 21~32)	研究発表 (講演番号 33~45)

日本熱帯農業学会第113回講演会 プログラム

第1日 3月30日(土)

		第1会場 (203講義室)			第2会場 (204講義室)
開始時刻	座長	講演番号. 講演題目 著者 [*発表者] (所属)	座長	講演番号. 講演題目 著者 [*発表者] (所属)	
9:30	加藤盛夫 (筑波大学)	1. Loop-mediated isothermal amplification (LAMP) 法による植物ウイルス病の簡易検定法の検討とインドネシアにおける現地利用 *江口ゆみ・篠原麻希・Ani Widiastuti・古谷綾子・坂上伸生・佐藤達雄 (茨城大学農学部)	塩津文隆 (茨城大学)	11. バングラデシュのハティア島における農業と土地利用 *安藤和雄 (京都大学東南アジア研究所)	
9:45		2. Effects of living mulch in a paddy rice field on the growth and yield of rice cultivars in Thailand *Mananya Panyadhira, Thawansak Phaosang and Hisayoshi Hayashi (筑波大学生命環境科学研究科)		12. インドネシア・ボゴール市およびジョグジャカルタ市近郊の水田土壌における有機農業と有機物特性 (予報) *坂上伸生 ¹ ・Windi AZ ^{1,2} ・浅木直美 ¹ ・小松崎将一 ¹ ・西脇淳子 ¹ ・M Faiz S ² ・Irfan DP ³ ・佐藤達雄 ¹ (¹ 茨城大学農学部, ² ボゴール農科大学, ³ ガジャ・マダ大学)	
10:00		3. 東アフリカ、ウガンダにおけるイネ害虫の発生状況 *藤家 梓 ¹ ・Michel H. Otim ² ・時田邦浩 ³ ・坪井達史 ³ ・後藤明生 ³ ・松本俊輔 ³ ・大井田寛 ⁴ ・鶴家綾香 ⁵ ・夏秋啓子 ⁵ (¹ 元JICA・ ² NaCRRRI・ ³ JICAコメ振興プロジェクト・ ⁴ 千葉農林総研・ ⁵ 東京農業大学)		13. ガーナ、ブルキナファソにおける保全農業普及へ向けての取り組み (第1報) 気象区分帯ごとの地域別特徴と期待される保全農業技術について *大前 英 ¹ ・Ronald Nuhu Issaka ² ・Albert Barro ³ ・James M. Kombiok ⁴ ・Simpore Saidou ³ ・Jpseph A. Ali ² ・Mohammed M. Buri ² ・南雲不二男 ¹ (¹ 国際農林水産業研究センター, ² ガーナ土壌研究所, ³ ブルキナファソ国立環境・農業研究所, ⁴ サバンナ農業研究所)	
10:15	瀬古澤由彦 (筑波大学)	4. ウガンダにおける斜面型水田開発の効率性 *宮本輝尚・平田将史・丸山敦史・菊池眞夫・高垣美智子 (千葉大学園芸学研究科)	林久喜 (筑波大学)	14. ニジェール共和国のサヘル地域における化学肥料の少量局所施肥 (マイクロドーズ) と村内有機物の施用がトウジンビエ (<i>Pennisetum glaucum</i> L.) の収量と土壌の肥沃性に及ぼす効果 ~農家圃場における2年間の調査結果を通して~ *鈴木香奈子・岡田謙介・東楨 健 (国際農林水産業研究センター)	
10:30		5. Heading response of African upland rice genotypes to photoperiod *Ecaat Stephen Justin, Kenji Irie, Hidehiko Kikuno, Hironobu Shiwachi and Hidekazu Toyohara (Tokyo University of Agriculture)		15. 高炭素率資材投入農法の最前線—ブラジル・サンパウロ州のサトウキビと野菜— *小田正人 ¹ ・田村憲司 ² ・中塚博子 ² ・瀧澤紗史 ² (¹ 国際農林水産業研究センター, ² 筑波大学大学院)	

10:45	<p>6. Emergence and establishment of upland rice seedling under different temperature conditions</p> <p>*Elsie Sarkodee Addo, Kenji Irie, Hironobu Shiwachi and Hidekazu Toyohara (Tokyo University of Agriculture)</p>	<p>16. 有機物の効果的施用法決定に関する品質工学の応用</p> <p>*小田正人・宝川靖和 (国際農林水産業研究センター)</p>
11:00	<p>7. Transition in distribution of tree in connection with changes in their utilization of the tree-rice ecosystem in Northeast Thailand</p> <p>*Ha T.Pham¹, Shuichi Miyagawa¹, Kazuo Funahashi² and Yasuyuki Kosaka³</p> <p>(¹Graduate School of Applied Biological Sciences, Gifu University, ²Ryukoku University, ³Research Institute for Humanity and Nature of National Institutes for the Humanities)</p>	<p>17. ベトナム中部小規模水田における低投入型稲作技術の改良</p> <p>青井一洋¹・Le Dinh Huong²・Phan Vo Bao Dan³・Le Duc Tam²・Nguyen Ha²・木村園子ドロテア¹・*及川洋征¹</p> <p>(¹東京農工大院農・²フエ農林大・³バックマー・チャコールプロジェクト)</p>
11:15	<p>8. Estimate of productivity of mini-tuber form vine cutting technique for seed tuber production in water yam and white yam</p> <p>*Ryo Matsumoto, Hidehiko Kikuno, Olugboyega Success Pelemo, Malachy Oghenovno Akoroda, Antonio Jose Lopez-Montes and Hironobu Shiwachi (Tokyo University of Agriculture)</p>	<p>18. ユーカリ林を組み込んだ土地利用連鎖系による持続的土地利用の実証と体系化 その4 ブラジルサンパウロ州におけるサトウキビ栽培体系の特質</p> <p>*林 久喜・仁平尊明・田瀬則雄・山中 勤・田村憲司・小野寺真一・シロタ ヒカルド・ヒラタ ヒカルド・サライバ フェルナンド (筑波大学生命環境系)</p>
11:30	<p>9. フィリピン、ルソン島で頻発するガリー侵食と除草剤耐性トウモロコシ普及との関係</p> <p>*南雲不二男¹・内田 諭¹・Rogelio P. Creencia²・Roland Allan A. Dimaano²・Samuel M. Contreras² (¹国際農林水産業研究センター, ²Bureau of Soil and Water Management, Philippines)</p>	<p>19. Improvement of informed consent by farmers for technology adoption (1) -Application of farm sketch in Northern Namibia –</p> <p>*Yoshiaki Nishikawa¹, Martha Hangula², Otilie Sivolo², Benisiu Thomas², Kiyomi Kaida³, Yuichiro Fujioka⁴ and Morio Iijima⁴</p> <p>(¹Nagoya University, ²University of Namibia, ³Graduate School of International Development, Nagoya University, ⁴Kinki University)</p>
11:45	<p>10. ラオス北部における水車利用の諸相</p> <p>*園江 満 (日本大学生物資源科学部)</p>	<p>20. Unconscious agro-biodiversity management through cultural practices; Case of Eastern Kenya</p> <p>*Mizuki Iida^{1,2}, Yasuyuki Morimoto², Patrick Maundu^{1,2,3} and Yoshiaki Nishikawa⁴</p> <p>(¹Graduate School of International development, Nagoya University, ²Bioersity International, ³The National Museums of Kenya, ⁴Nagoya University)</p>
12:00	昼休み	

第3会場 (100講義室)	
13:30	総会
14:30	<p>公開シンポジウム 気候変動下で対応を迫られる首都圏農業－熱帯農業をヒントにした適応策と智恵－</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱帯の作付体系に学ぶ 弦間 洋 (筑波大学生命環境系) ・茨城県における水稲高温障害軽減対策とその普及－高品質米生産運動の推進について－ 田中研一 (茨城県農業総合センター 専門技術指導員室) ・作物の高温馴化能を利用した病害抵抗性の誘導機作と応用 佐藤達雄 (茨城大学農学部) ・気候変動等下でも安定出荷が求められる業務用野菜の契約栽培事例と、それを支えるインドネシア人農業研修生との長年の関わり 藤田正三 (茨城中央園芸農業協同組合) ・Local wisdom of Bali in relation with agriculture and climate change mitigation Dewa Ngurah Suprpta (Faculty of Agriculture, Udayana University) <p>コーディネーター：新田洋司 (茨城大学農学部)</p>
17:45	懇親会 (こぶし会館) 19:15 終了予定

第2日 3月31日 (日)

		第1会場 (203講義室)			第2会場 (204講義室)
開始時刻	座長	講演番号. 講演題目 著者 [*発表者] (所属)	座長	講演番号. 講演題目 著者 [*発表者] (所属)	
9:00	志水勝好 (筑波大学)	21. ウコンおよびハルウコンの根茎発達に伴う各器官の精油含有量および構成成分の変化 *椎野由佳理・宮崎 彰・大谷慶人・山本由徳 (高知大学農学部)	及川洋征 (東京農工大学)	33. ミクロネシア連邦の離島における人口移動と芋畑利用の関係性 *西村 知 ¹ ・山本宗立 ² ・川西基博 ³ (¹ 鹿児島大学法文学部, ² 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター, ³ 鹿児島大学教育学部)	
9:15		22. ベトナム、北西部における食用カンナの生産と栽培 *西村美彦 ¹ ・山本由徳 ² ・Tang Thi Hanh ³ ・Dao Huu Binh ⁴ ・田中伸幸 ⁵ ・宮崎 彰 ² (¹ 国際協力機構タイバック大学, ² 高知大学農学部, ³ ハノイ農業大学農学部, ⁴ タイバック大学農林学部, ⁵ 高知県立牧野植物園)		34. ミクロネシア連邦チューク環礁における食事調査 *山本宗立 ¹ ・西村 知 ² ・川西基博 ³ (¹ 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター, ² 鹿児島大学法文学部, ³ 鹿児島大学教育学部)	
9:30		23. ベトナム北西部における食用カンナデンプンの製造と製麺加工 *山本由徳 ¹ ・西村美彦 ² ・Tang Thi Hanh ³ ・Dao Huu Binh ⁴ ・田中伸幸 ⁵ ・宮崎 彰 ¹ (¹ 高知大学農学部, ² 国際協力機構タイバック大学, ³ ハノイ農業大学農学部, ⁴ タイバック大学農林学部, ⁵ 高知県立牧野植物園)		35. ミクロネシア連邦チューク州の珊瑚島における居住地域の有用作物 *川西基博 ¹ ・山本宗立 ² ・西村 知 ³ (¹ 鹿児島大学教育学部, ² 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター, ³ 鹿児島大学法文学部)	

9:45	<p>24. インドネシア、南ソロンにおける野生サゴヤシ林 *山本由徳¹・吉田徹志¹・Rembon F. S.²・Yavet M.³・Samusl B.³・宮崎 彰¹ (¹高知大学農学部, ²ハルオレオ大学, ³パプア州立大学)</p>	<p>36. The local names and uses of genus mangifera in Java – Especially on keweni, a local name for two mangiferas – *Yumi Ueda, Hirokazu Higuchi and Eiji Nawata (Graduate School of Agriculture, Kyoto University)</p>
10:00	<p>25. 沖縄本島中南部におけるサトウキビ株出し単収の長期的変動 *出花幸之介・大庭達人・平田清勝・崎間浩・内藤 孝・伊禮 信・田場奏美 (沖縄県農業研究センター)</p>	<p>37. ザンビア東部州の疎開林における焼畑の農業生態学的研究 4. 休閑中の植生・土壌有機物の回復に対する耕作履歴の影響 *安藤 薫・真常仁志・倉光 源・三浦励一・舟川晋也 (京都大学大学院農学研究科)</p>
10:15	<p>26. モチトウモロコシ在来品種の特性と日本への伝播 *三島優香・縄田栄治 (京都大学大学院農学研究科)</p>	<p>38. 過去8年間の焼畑土地利用履歴と休閑期の植生回復との関係 –ラオス北部カム村落の事例– *鈴木玲治¹・竹田晋也²・Lamphoune Xayvongsa¹ (¹京都学園大学バイオ環境学部, ²京都大学)</p>
10:30	<p>27. Growth characteristics of three Vigna species under aluminum treatment at low pH condition *Rusama Marubodee¹, Yuko Abe¹, Hiroshi Ehara¹ and Norihiko Tomooka² (¹Mie University, ²NIAS Genebank)</p>	<p>39. 中南部アフリカ・ザンビアにおける土地法の改正とランドグラブリング *大山修一 (京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科)</p>
10:45	<p>28. グアバの無核化处理におけるGA3の影響 *井上広大・水野宗衛・木下春奈・田中伴典 (玉川大学農学部)</p>	<p>40. Salinity level and soil nutrients in coastal area of Bangladesh as affected by shrimp based cropping system: A village level study *Md. Rashedur Rahman (Graduate School of Asian and African Area Studies, Kyoto University)</p>
11:00	<p>29. 液肥のリン濃度がパッションフルーツの果実品質におよぼす影響 *近藤友大・樋口浩和 (京都大学院農学研究科)</p>	<p>41. マラウイ高地における温帯果樹の改良品種に対する農家の認識および品種の管理(2) *福田聖子^{1, 2}・西川芳昭¹ (¹名古屋大学大学院, ²日本学術振興会 (DC2))</p>
11:15	<p>30. 受粉後の低夜温がチェリモヤの果実品質に及ぼす影響 *松田大志¹・樋口浩和¹・米本仁巳²・岡山智彦²・牛尾峻之²・緒方達志³ (¹京都大学院農学研究科, ²神内南方系果樹研究所, ³国際農林水産業研究センター)</p>	<p>42. マレーシア・インドネシアの油やしプランテーションからの温室効果ガス放出について *吉岡 尚・島田周三・吉岡 遼・坂田ロスナエニ・Lulie Melling・青木 博・坂本 淳・犬伏和之 (千葉大園芸学研究科)</p>

11 : 30	<p>31. ザンジバル島における自給的稲作農業を成立させる諸要因の検討 *和田美野・樋口浩和・池野 旬・田中 樹 (京都大学院農学研究科)</p>	<p>43. スイートソルガム搾りかすに由来する窒素の土壌動態とコマツナの生育および収量への影響 宮 達也¹・*浅木直美¹・塩津文隆¹・新田洋司¹・上野秀人²・小久保敏明¹ (¹茨城大学農学部, ²愛媛大学農学部)</p>
11 : 45	<p>32. ガーナ内陸低湿地で水稻栽培を継続するにあたって農家が考える問題点 *團 晴行¹・沖 陽子²・広内慎司¹ (¹国際農林水産業研究センター, ²岡山大学)</p>	<p>44. Anatomical and morphological characteristics and sugar accumulation features in sweet sorghum stem *Youji Nitta, Ryo Nakaniwa, Fumitaka Shiotsu, Naomi Asagi, Akira Kato and Toshiaki Kokubo (The College of Agriculture, Ibaraki University)</p>
12 : 00		<p>45. Study of high temperature effect on yield characteristics in some new released indica rice cultivars Muhammad Addip Novianto, *Youji Nitta, Naomi Asagi and Fumitaka Shiotsu (The College of Agriculture, Ibaraki University)</p>